

「放牧を活用した遊休荒廃地の解消」

木曾町他5町村

(1) 活動の背景と目的

長野県木曾地域は、県内唯一の長野県中央家畜市場を擁し、飼養繁殖雌和牛950頭を誇る県内有数の肥育素牛生産地帯である。

この地域特性を活かし、遊休荒廃農地解消に繋げるべく繁殖雌和牛の放牧を進めてきたが、これまでの購入飼料が安い状況下にあっては、地域への波及は大きなものではなかった。しかし、近年は子牛販売価格の低迷に加え、生産コストである子牛用配合飼料・輸入粗飼料価格が上昇しているため遊休荒廃地放牧が見直される状況となっている。

(2) 活動の経過と実績

ア 月1回の割合で開催される普及センター会議では協議事項の冒頭に位置づけ進捗状況と役割分担を確認した。(進捗状況と役割分担の確認4月～)

イ 畜産担当者は、家畜市場反省会や公共牧場での放牧衛生検査時にPRするとともに草地管理に対して技術支援した。(反省会での啓発5回、公共牧場3牧場、技術支援6月～)

ウ 新規実施場所(②木曾町三岳本洞、③木祖村菅岩淵(増設)、⑥上松町倉本)の設置にあたっては、

地方事務所農政課も含めて電気牧柵の設置および牛の運搬作業にあたった。(支援7月～)

エ 平成22年は遊休荒廃農地17.8ha(昨年より4.2ha増)に対して繁殖和牛の放牧頭数延べ35頭を放牧できた(表1)。

オ 木曾優良子牛生産パワーアップ協議会の研修会、月1回開催される農業委員会(木曾町、南木曾町)でのPR説明(説明2～3月)。



図1 電気牧柵の設置

表1 平成22年度の放牧実施状況

実施場所	面積(a)	頭数
行政主導で実施している場所		
① 木曾町三岳沢頭	250	5
② 木曾町三岳本洞	200	4
③ 木祖村菅岩淵	170	3
④ 南木曾町蘭向ヶ原	60	2
⑤ 南木曾町与川	160	2
⑥ 上松町倉本	20	2
畜産農家主体の事例		
⑦ 大桑村小川	200	3
⑧ 南木曾町与川	100	4
⑨ 南木曾町十二兼	200	4
⑩ 南木曾町田立	400	4
⑪ 南木曾町田立	20	2
合計	1,780	35



図2 平成22年度の放牧実施位置

(3) 遊休荒廃地の解消状況

ア 木祖村菅岩淵

①で平成19年度から放牧を始め、今年度まで放牧活用をしたが、来年度は耕作地に復帰しソバを作付け予定している。

②で22年度から放牧をし、荒廃地解消に取り組んでいる。23年度は②だけでは放牧に限度あるため、④で放牧を検討中。

③22年度に重機で雑木などを掘り起こし、トラクターで耕起してソバの作付けが行われた。

⑤も荒廃地となっているので放牧を数年行い、その後作物の作付けを検討していきたい。

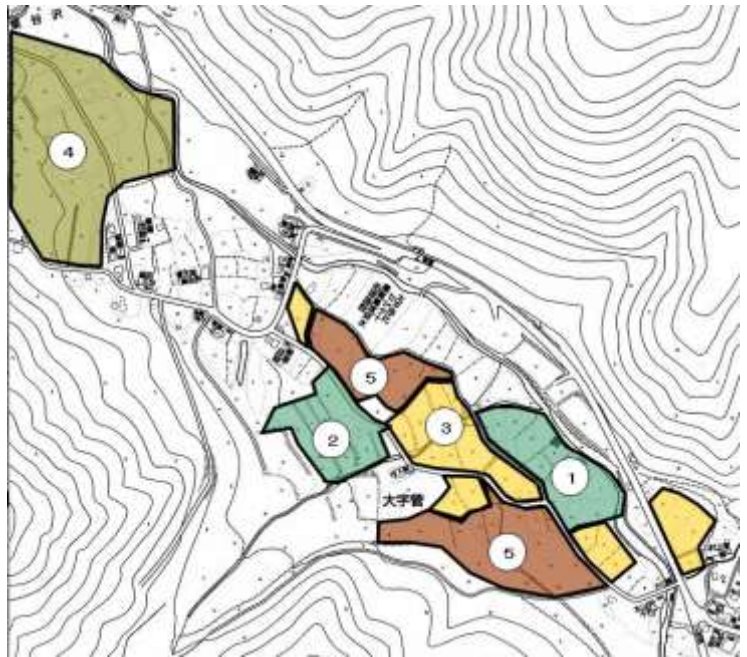


図3 菅岩淵地区の農地の利用状況

イ 南木曾町蘭向ヶ原



図4 放牧を終え帰る準備の牛

平成20・21年と放牧を行ったが、放牧開始時期が遅く放牧期間が短かったこともあり草を十分に綺麗にすることができなかった。

今年度はやや遅れたもの7月20日から放牧を開始し、放牧終了時にはススキの株元を若干残すくらいに採食をさせることができた。

平成23年度を放牧活用の最終年とし、地主は平成24年から作物の作付けを検討している。

(4) 考察及び今後の課題

ア 平成19年から行って遊休荒廃地への放牧への理解が地域住民に理解されつつある。

また、放牧地周辺では獣害の被害が軽減されるため関心が高まっている。

イ 平成23年度に新規に1地区（南木曾町）で放牧予定であり、飲み水と休憩所の確保などの指導を行う。

ウ 今後は放牧希望地が出てきたときに、電気柵など馴致し、放牧が可能な牛の確保が必要である。